

2011 年 9 月 15 日

会社名 エルピーダメモリ株式会社
代表者名 代表取締役社長 坂本幸雄
(コード番号 6665 東証第 1 部)
問い合わせ先 取締役兼執行役員 安達隆郎
(TEL 03-3281-1500 (代))

円高とDRAM不況の緊急対策について

エルピーダメモリ株式会社（代表取締役社長兼 CEO 坂本幸雄、以下、エルピーダ）は、過去最悪の円高水準と、当社の主力事業である DRAM(※注 1)の急激な市況悪化に対応するための緊急対策を取りまとめましたので、本日、以下の通り、お知らせ致します。

為替は、対米ドルで昨年 5 月初旬の約 95 円から円高の一途をたどり、一年前の 9 月上旬の約 85 円から今年の 8 月には一時 75 円台になるなど、歴史的な円高を記録したあと、足元は 77 円前後で推移しております。当面の円高基調が見込まれる中で、DRAM 製品の価格は一年前に比べて約 3 分の 1 に急落するなど、当社を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況にあります。これらの環境激変を踏まえ、当社としては、全社一丸となって経営体制を強化することを目的に、下記の施策を推進して参ります。

(1) 当社で生産する DRAM 製品の主力を、現行の容量 2 ギガ(※注 2)ビット品から、一部製品を除き、原則としてすべて容量 4 ギガビット品へ移行し、大容量製品へシフトすることで、価格下落圧力に対応して参ります。

(2) 広島工場では、できるだけ早急に製造プロセスの微細化を進めることで、生産性を高めます。具体的には、現行で製造プロセスが 40 ナノメートル (nm、以下、ナノ※注 3)の製品が先端品の主流ですが、先端の 30 ナノ製品などへの切り替えを推進し、コスト低減を図ります。

(3) 調達部門においては、材料、装置の集中購買等により米ドル建ての取引を拡大し、為替変動リスクを抑制するとともに、さらなる原価率の改善に努めます。

(4) 円高・DRAM 不況が継続した場合には、それに対応するため、グループ内において製品の特徴に応じた生産体制の最適化をさらに進めることを検討します。そのひとつとして、広島工場の生産能力の一部を、コスト競争力の高い台湾の生産子会社レックスチップ

(Rexchip Electronics Corporation、瑞晶電子股份有限公司、本社：台中市)へ段階的に移設することも視野に入れております。

なお、これら計画に関する可能性について現在検討を進めておりますが、広島における当社従業員については、当社グループ内での吸収と活用を含めて、その雇用を維持することを前提としております。

(5) 特許戦略においては、当社が保有する知的財産権を従来以上に積極活用し、特許収入を拡大して参ります。

(6) 開発部門における開発品種の絞込みと間接部門の業務効率化で、さらに経費を圧縮致します。採用につきましては、中途採用を抑制致します。新卒採用の計画に変更はございません。なお、過去数ヶ月の DRAM 市況と業績の悪化を鑑み、代表取締役社長兼 CEO の報酬手取額を、当面の間、100%カット致します。

注1：DRAM (Dynamic Random Access Memory の略。情報の読み出しと書き込みを行う半導体メモリ。データを記憶するのは一時的で、電源を切るとデータは記憶されない。)

注2：ギガは、DRAM の場合、データの大きさ(情報量)を表す単位。1 ギガは 1,073,741,824 (2 の 30 乗、約 10 億)。

注3：nm (ナノメートル) は、長さを測る単位。1nm は、10 億分の 1 メートル。

ニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

<報道関係からのお問い合わせ先>

エルピーダメモリ株式会社
パブリックリレーションズグループ
広報担当 中島・齋藤・鶴巻
TEL : 03-3281-1500
E-mail : press@elpida.com